

ベナンの風便り

2009年5月号

みなさん、新しいクラスでの生活も1か月以上が経ち、生活にも慣れてきたのではないかと思います。ベナンは雨期に入り雨が降ることが多くなってきました。でもこれは恵みの雨。道端の木には果汁たっぷりのマンゴーがたくさん実り、おいしくいただいています。(小さいものは4個で100フラン(約25円)、大きいものは1個で100フランくらい。)

さて今回はベナンの人々の服装についてお伝えしたいと思います。日本では伝統的な服装で街を歩くことがほとんどなくなってしまいましたが、ベナンには世界に自慢できる素晴らしい文化が残っていますよ!

ベナンの伝統衣装「ボンバ」



左の写真は町の祝日の様子。たくさんの方がカラフルな布で作った服を着ています。また右の写真の子どもたちは、この日は祝日なのでいつもよりちょっとだけオシャレをしています。だいたい休日はこのような格好をしています。これらのカラフルな服装は「ボンバ」と呼ばれるもので、ベナンの伝統衣装です。日本人の感覚だと、「えっ!? パジャマ!?!」と誤解されています。でも祭りのときはもちろん、葬式の時などはみんな同じ柄の布でボンバを作り、練り歩いたり踊ったりします。そしてこのボンバはベナンの正装。私のベナンでの勤務先は教育省ですが、省庁でも多くの方がこのボンバ姿で仕事をしています。布の種類もたくさんあり、安価なものから高価なものまでありますが、お金持ちの人も貧しい人もみんなこのボンバを着ているのです。さて、ではこのボンバは一体どのように作るのでしょうか!?

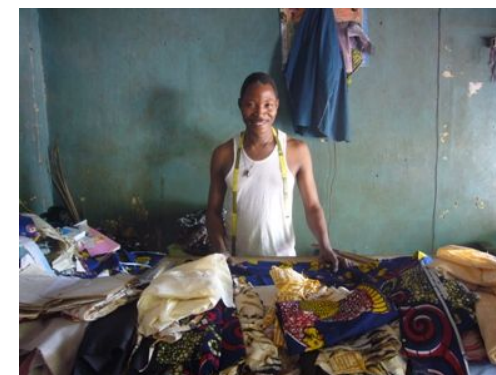
ボンバの作り方

まずは布選びから。町には布屋がたくさんあり、選びきれないほどのカラフルな布がたくさん置いてあります。ボンバを作るには基本的に上下で4m必要で、安い布は4mで2000フラン弱(500円弱)、上質のものは数万フランするものもあります。ただこの布、服を作る以外にも部屋のインテリアに使ったり、赤ちゃんを包んだりすることができ、用途が広いです。

さて悩みに悩んで選んだ布は、仕立て屋に持っていきます。メジャーで寸法を測って、世界に1着しかないオリジナルボンバを作ってもらうのです。この際に刺しゅうなども施すことができ、ここで個性を発揮します。刺しゅうなしは1500フラン(約375円)、シンプルな刺しゅうを入れると4000フラン(約1000円)程度かかります。そして仕立て屋で作るものはボンバだけではなく、学校の制服やスーツ、シャツなども同じ要領で作ります。なのですべてがオーダーメイドとすることができますね。



町の布屋さん



町の仕立て屋さん

左の写真は作ったボンバを着たもの。似合っていますか!?(笑)そして右の写真、ちょっと違うのがわかりますか?ボンバの上にさらに「アバダー」という刺しゅうの入ったマントのようなものをまっています。かぶっている帽子は「ゴビ」というもの。よく王様など偉い人がしている服装です。王様に見えますか!?(笑)



ボンバを着て子どもたち



こんな素晴らしい文化が残るベナン。しかし日本がそうだったように、ベナンにも西洋化の波が確実に押し寄せてきており、若者がジーンズにシャツといった服装をしているのを見かけます。もちろん誰にでもオシャレをする自由があり、若者は海外に憧れをもっています。でもベナンのこの素晴らしい伝統を是非ずっと守ってほしいと願うばかりです。

海外に誇ることができる日本の文化って一体何でしょうか?日本の伝統について考えさせられてしまいますね。

ブログ更新中

ベナンの風：<http://benin.seesaa.net/>